

2005年12月1日

バーチャルCMビジネス日本で本格的にスタート

米国 バーチャルグラフィクスサービス会社「PVI社」と独占契約

博報堂DYメディアパートナーズは米国でバーチャルグラフィクスの技術開発～サービス提供をフルサービスする「PVI Virtual Media Services社（本社：米国ニューヨーク州ニューヨーク）」（以下PVI社と略）と業務提携し、12月から本格的にテレビでのバーチャルCMビジネスを開始します。

博報堂DYメディアパートナーズは、去る2月にPVI社の協力を得て、「日産A3チャンピオンズカップ2005」（2月13日～2月19日 日本テレビ系列 制作：日本テレビ）と「TOYOTA BIG AIR」（2月27日テレビ朝日系列 制作：北海道テレビ）において、バーチャルCMを日本で初めて実施し、好評を博しました。

その後、日本市場でのバーチャルCMビジネスの可能性の検討を行った結果、

「バーチャルCMは通常のCMとは違って、番組本編と映像表現がシームレスに繋がる上、さらにCG技術を使った表現を加えることでインパクトのある演出が可能となることから、新しいテレビ広告業現手法として期待できる」

ため、日本市場でもバーチャルCMビジネスの可能性は大きいと判断し、この度PVI社と業務提携を実施し、12月からサービスを本格的に開始します。

バーチャルCMは、スポーツ番組などのテレビ放送に映像合成技術を用いて、実際はその場所に無い看板や実際の商品などの映像やCGを広告として実際の映像に挿入する技術です。

海外では、各国で既に数年前から新たなテレビ広告サービスとして実施されており、メジャーリーグの中継において、バックネット下の看板を米国と日本で差し替えて放送するサービスなどで、日本でも知られています。

PVI社は、米国においてバーチャルグラフィクスやバーチャル広告の技術開発～サービス提供の先駆者で、北米・南米および、日本を含むアジア諸国で、数多くのバーチャル広告関連技術特許を保有し、すでに諸外国では、バーチャル広告サービスを行っています。

日本においては、博報堂DYメディアパートナーズが独占的にその技術およびサービスノウハウの提供を受ける形でビジネスをスタートさせます。

なお、ビジネス推進にあたっては、博報堂DYメディアパートナーズの関連担当部門および総合制作事業会社「博報堂プロダクツ」、スポーツビジネス専門会社「博報堂スポーツマーケティング」で、専門チームを立ち上げ、テクニカルサービス、オペレーション、クリエイティブ開発など一連のサービス体制を構築し、各放送局や広告主に積極的に提案していきます。

本件に関するお問い合わせ

2005年12月1日
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
総合計画室（広報担当）川路・山下 Tel：03-6218-9175